

2A8	1, 2, 8, 10, 16, 17	フェアトレード商品を広めよう
<p>私たちの班では、発展途上国の貧困な状況をネットニュースの記事で見かけてフェアトレードというシステムがあることを知りフェアトレード商品を広めたいというタイトルで探究しました。そもそも皆がフェアトレードという存在を知っているか、知らなかったときどうやって伝えればフェアトレードというものを認知してもらおうことができるのかを考えて探究の課題に取り組みました。今回活動を通して、日本は他国に比べてフェアトレードに対しての認知度が低くあまり関心がないことが分かりました。</p>		
2A9	12	食品ロスを減らす！
<p>日本の食品ロス問題の中でも家庭から出る生ごみに着目しました。そのごみの量を減らすためにコンポストを使って肥料を作ります。そして農家の方とその肥料を廃棄されるはずの食材と交換します。そうすることで食品ロスを減らすサイクルができるのではないかと考えました。特に交換してくれた方には、ポイントカードやお得な特典が付いたりするサービスを考えました。しかし、コンポストで肥料を作ったとしても農家の方が使用できる肥料ではなかったり、多くの時間がかかってしまいます。そのため私たちでも簡単に農家の方々が使える肥料を作れるコンポスト活動を考えることが必要だとわかりました。</p>		
2B1	2, 8, 12	家庭の食品ロスを減らす
<p>私たちはSDGsの2「飢餓を減らすために」をテーマに解決に取り組みました。結論から言うと、私たちの発表は大失敗しました。当初、給食の食品ロスを減らすことをテーマとしていましたが、中間発表でのテーマ設定が曖昧で、何を伝えたいのかがあやふやな状態でした。そこで、この問題をさらに身近な物で、皆が取り組みやすいものに目標を決め、コンポストや過剰除去対策料理をメインの解決策として計画を進めました。その過程で多くを学び、私たちが知ろうとしていないだけで、私達にもできることが数多くあるのだと気付きました。</p>		
2B2	1, 2	愛食
<p>私たちの班は、SDGsの1, 2をテーマにしました。その理由は自分たちが解決できそうな課題に注目したときに給食の食べ残しが気になったからです。最初私たちが考えた案は、フェルトを使って食育支援の絵本を作ろうとしていました。しかし、一部の人にしか伝わらないことに気がついたため、献立表の裏によく残される食べ物をテーマとした漫画を掲載することを考えました。今後給食センターに協力していただき実行する予定です。この活動を通して食べ残しをしないことを伝えることの難しさを学びました。限られた時間の中で、丁寧に、幅広く、人に考えを伝えなければならないことの難しさにも気づくことができました。</p>		
2B3	13	気候変動に対して、今の私たちにできること
<p>私たちの班は、SDGs13の「気候変動に具体的な対策を」について、今の私たちにできることをテーマにして活動しました。全員で話し合った結果、「私たちの地域である『橋本市』のハザードマップをどの年齢層にもわかりやすくするにはどうすればよいか」ということについて、考えを深めることにしました。そのために私たちは実際に橋本市役所に訪問させていただき、現在の橋本市で行われている防災対策などについて詳しく聞かせていただきました。また、ハザードマップの危険な場所にも実際に行き、写真撮影をしました。この活動を通じて、より分かりやすくするためにどうしたらよいかを考える難しさを知ることができました。</p>		
2B4	12	当たり前にごみの分別に取り組むために
<p>私たちはつくる責任つかう責任の解決に向け、特にごみ問題を中心に取り組みました。ごみと資源を分別することでごみの量は減ると知り、みんなが当たり前にごみの分別に取り組めるようになれば、目標を達成できると思いました。二年生の各クラスを対象にキャップの回収を行ったり、アンケートを実施したことで、キャップの回収箱があれば分別してくれることが分かりました。そこで学校などで学ぶなどの機会を作れば、小学生から高校生までがごみの分別を意識する環境づくりができるのではないかと考え、自動販売機の横や教室などにペットボトルキャップの回収箱を設置することで、ごみの分別にも取り組みやすくなると思いました。</p>		
2B5	13	「燃やす」をなくそう
<p>私たちのテーマは「燃やす」をなくし二酸化炭素を減らすことを課題に考え、具体的には身近な服について調べることにしました。そこで私たちはUNIQLOさんにインタビューをさせていただきました。今のウガンダの状況と「服のカプロジェクト」について詳しく教えてもらいました。パワーポイントを作るときにUNIQLOさんの店長さんの言葉を思い出し、中間発表で講評くださった方のアドバイスも取り入れました。それを参考に「あなたの宝物がまたどこかで誰かの宝物になっているかもしれません」と言うキャッチコピーを作りました。</p>		

2B6	14、15	海の豊かさを守ろう
<p>海の豊かさを守ろうをテーマに身の回りにある海洋汚染につながるポイ捨て、水質汚濁に着目し活動を行いました。ポイ捨て対策としてゴミ箱設置、水質汚濁対策としてはアクリルたわしの知名度向上のために学童へアクリルたわしを作りに行きました。ゴミ箱設置は橋本市役所の方々の協力のもとで橋本駅または道沿いへの設置を試みましたが難しいとのことでした。アクリルたわし作りでは隅田小学校学童クローバーさんへお邪魔させていただき生徒と一緒にアクリルたわしを作りました。家庭で使ってくれるとの事で環境について考えてもらえるきっかけになったはずです。この活動を通してアクリルたわしの良さを知ることができました。個人の意識が大切だと気づきました。</p>		
2B7	1、2、3	子ども食堂活性化大作戦
<p>子ども食堂を活性化するためには何が必要なのかをテーマにしました。実際に子ども食堂へ足を運んだところ、人手が足りておらず、職員の方々は困っているという現状を知りました。また、職員の方々は高齢者の方が多く、体力的にもつらいとおっしゃる方が多くいました。そのため子ども食堂の開催数が少なくなり、しかも後継者がいないため、今の代で途絶えてしまうということがわかりました。「子ども食堂活性化」という幅広いテーマであったため、課題は発見することはできましたが問題解決には至れませんでした。この経験を次に活かせたいと思います。</p>		
2B8	11	外国人が住み続けられる橋本市に
<p>私たちは日本人だけでなく、外国人も暮らしやすい街づくりにすることをテーマにし、橋本市にある、和歌山県社会福祉専門学校に通う外国人の方々に買い物をする際に困ったことなどはあるのかなど、アンケートを取りました。その結果から、私たちはお店に英語表示やイラストをつけようと考えファミリーマートや高野山の勝間屋に依頼しました。置かせていただいた結果を店長さんに伺うと、外国人に商品の説明をする機会が減った、などの効果があり、文字やイラストの大きさなどの改善点もありました。英語表示があることで外国人が買い物しやすくなり、橋本市を訪れる観光客が増加し景気が良くなり、全ての人が住み続けられる街になると思います。</p>		
2B9	12	橋本高校で行われている食品ロスを防ぐ取り組みについて
<p>私たちはSDGs12の作る責任使う責任に基づいて、橋本高校で行われている食品ロスを防ぐ取り組みについて調べました。最初の取り組みとして、食堂に予約制を導入しようとして提案しました。しかし、予約制にすると学食を続けることが困難になることを知り、この案は却下となりました。予約制を提案する際に、現在の学食の食材廃棄量などをきいたところ、橋本高校の食堂では食品ロスを最小限に抑えるための取り組みがされていることがわかりました。それを広く知ってもらおうと考え、橋本高校で行われている食品ロスを防ぐ取り組みを紹介するテーマを再設定しました。主な取り組みとして、学食の職員の方々に食品ロス対策を詳しく教えていただき、それを自分たちでまとめました。これらの取り組みを通じて、学食などにかかわらず、家庭などでも取り組める食品ロス対策がたくさんあるとわかりました。</p>		
2B10	11	楽しくゴミを捨てられるようにしましょう
<p>私たちは道端にゴミが落ちている様子を見かけたことから、落ちていたゴミを減らすというテーマを掲げて活動しました。はじめは橋本市内の歩道にゴミ箱を設置するという計画を立て、そのことを橋本市役所に聞いてもらったのですが、設置は難しいということがわかり、別の案である楽しくゴミを捨てられるゴミ箱を作るというものに変更しました。しかし、結局時間が足りずに発表までに終わらせることができませんでした。このことから、もっと見通しのある計画を立てる、一つの案にとらわれずに無理だったら別案を考えるなどすべきだったと反省しました。</p>		
2C1	4	質の高い教
<p>私たちはSDGs4の質の高い教育をみんなにについて、どのようにしたら質の高い授業を全員が受けることができるかを探究しました。中でも私たちのクラスが理系であることに着目して他クラスと比較し、何をすべきかを考えました。アンケート調査により、私たちのクラスは他クラスよりも平均勉強時間が短いことがはっきりわかりました。そのことを踏まえて今後の入試の変化にあわせた勉強方法を私たちにまとめ発表しました。授業の中で改善してほしい点はいくつかありましたが、それはあえて先生が私たちのためにしてくれていることだと気づきました。やはり、自ら気付き、自ら積極的に取り組んでいくことが質の高い教育につながる第一歩だと私たちは考えました。</p>		
2C2	11、15	橋本駅をよりよく
<p>私たちは橋本駅をよりよくするために活動してきました。階段に座ることを防ぐ、ごみのポイ捨てをなくす、このために橋本駅に何度も足を運び、駅員の方に私たちの考えを理解していただきました。まず初めに、ゴミ箱を設置しました。結果ゴミのポイ捨ては減りましたが、ゴミは誰が回収するかなどの課題が残りました。また橋本駅のベンチを増やす活動の目的は、階段に座り交通の妨げにならないようにしたり、立っている人を減らすことです。地域の方々の巻き込んだ活動にしたいと思い、小学校や中学校などに協力してもらいながら制作していきたいです。愛着を持ってもらうためにはどのようなデザイン、大きさ、素材がいいかなど地域の声を聞きながら活動を続けていきたいと思っています。</p>		

2C3	6	日本の水問題について
<p>SDGsにある17つの目標には、すべて水がかかわっていると思い、6の安全な水とトイレについて研究した。世界の問題に目を向ける前に、まずは日本の問題から対処していくことが必要だと考えた。災害時汚れた水を生活用水として使用するために、ろ過装置を自分たちで作り、実際水をろ過して実験もした。自分の住んでいる国の問題を解決せずにほかの国の問題を解決することはできないと考え、日本の水問題を解決することがSDGs6の解決の一步になるとの思いで取り組んだ。今の日本の状況から目を背けず、私たちにできることを考え、行動に移すことが、世界の問題の解決に近づく第一歩になると分かった。</p>		
2C4	1	橋本市の貧困問題について
<p>私たちの班は橋本市の貧困問題をテーマに活動してきました。まず、現在の日本の貧困問題の現状を調べ、全国と比べて橋本市はどうなのかを皆で話し合いました。分からないことや気になることは、橋本市の子供の貧困問題について取り組んでいる市役所の方々や実際にそのような子供達が暮らしている施設に話を聞きに行きました。私達が活動を通して学んだことは、自分達が思っていたよりも貧困問題が身近にあったという事です。最初は貧困は世界の一部で起こっていることで、全世界でも裕福な位置にいる日本にはあまり関係のないことだと思っていました。しかし、調べていくにつれて自分達の住んでいる橋本市でも貧困が起こっているという事実を知ることができたので、これからはもっと自分達にできることを考えていきたいです。</p>		
2C5	3	高校生と楽しく運動しよう
<p>最近では運動不足の人が増えているので、運動が苦手な人達にも楽しく運動してもらうことをテーマに設定した。実際に、地域の小学校に協力していただき、自分で考えた巨大すごろくを小学生と行った。楽しんでもらえるように簡単なお題を考え、私達も一緒に楽しみながら運動をした。参加してくれた小学生はとても楽しそうな様子で「また参加したい」と言ってくれた。小学生たちは「一緒に遊ぼう」と呼びかけると積極的に参加してくれる事が分かったので、これからも運動する楽しさをいろいろな人に呼び掛けていきたいと思った。また、私たちの思っているよりも今回は運動が苦手な人は少なかった。</p>		
2C6	11	地震における二次被害の防止
<p>僕たちの班ではSDGs11「住み続けれる街づくりを」をテーマに総合的な探究の時間に地震の二次被害を防ぐことを題材として取り組んできました。初めに地震の二次被害を防ぐために自分たちが出来ることの見解を出し合い、その中から実際に自分たちで行動できることを選びました。実際に行動するためには、自分たちには何が足りなくて何が必要かを考えていきました。取り組む中で自分たちが実行しようとしている計画には、少し問題があることがわかりました。そこから案を少しずつ訂正していき、学校にポスターを貼るなどをして実現可能なものには取り組むことができました。このような機会があれば、学んだことを生かして次につなげたいです。</p>		
2C7	12	学校での節電
<p>高校での節電をテーマにして、学校内で何の電気消費量が多いのかを調べ、それをもとに対策できることを考えた。学校で困っている電気のこと、学校内で節電できることを色々調べ、それを学校で実行できるか検討して自分たちができる範囲の節電に取り組んだ。一年間の電気使用量は、教室の照明が一番電気を使用していることを橋本高校の事務の方から教えていただき、はじめて自分たちが節電することの大切さに気づいた。</p>		
2C8	14	小学生に海問題を
<p>SDGs14の海の豊かさを守ろうをテーマに取り組みました。小学生という低年齢層にターゲットを絞ったのは、小学生へのボランティアに参加したことがきっかけでした。私たちは小学生の頃から海の問題に興味をもってもらい深く関わっていくべきだと考え、橋本小学校で海のごみ問題についての授業を行いました。そのことで小学生の海に対する意欲的な態度や、豊かな発想力に気づくことができました。探究活動を行っていく中で、発想豊かな子供たちにSDGsを託すことが未来につながることで、そして私たち自身も探究活動が重要であることを知りました。</p>		
2C9	15	身近な自然を大切に
<p>私たちはSDGsの中で、15の「陸の豊かさを守ろう」を選び、身近にある高野山に目を向けました。高野山の景観管理と保全について持続可能なことを考えて、募金という形で、参加しようと取り組みました。橋本高校の生徒に募金を募るために、高野山の自然や魅力を発信して、募金してもらおうと考えました。主な活動内容は、団体のホームページで活動を調べ、生徒対象にアンケートを実施するなどして、発表に繋げました。今回は募金という形でしたが、一つの目標でも様々な方向から取り組めること、人に対して何かを発信する大変さを学びました。実際に行動することは難しかったです。</p>		

2C10	14、15	橋本市をきれいに
<p>私たちは「橋本市をきれいに」というテーマでゴミ拾いに焦点を当て、大きく分けて3つの活動を行いました。一つ目は、紀の川の河川敷でゴミ拾いを行いました。私たちにとって最初の活動だったので、準備物や、時間配分などに改善すべき点がいくつかありました。二つ目は、駅から学校までの通学路でゴミ拾いを行いました。二つ目の活動ということもあって、かなり活動内容もよくなりました。三つ目は、全国で行われている「スポGOMI大会」に参加しました。このような大会がボランティアで行えていることにとっても驚きました。活動を通して、高校生にやれることには限界があり、社会に大きく影響を与えることは難しいと感じましたが、この活動を続けていくことには意味があると思うので、これからも続けてほしいと思いました。</p>		
2D1	1、2	フェアトレード商品を購入する重要性について
<p>私たちは「飢餓をゼロに」をテーマにした。どうすれば飢餓が減るのかを考え、フェアトレードというものを私たちが推し進めることができるのではないかと考えた。私たちがしたことは、校内でアンケートを取り、自分たちと年代の人がフェアトレード商品のことをどう扱っているのかを調べたことだ。結果から分かったのは、フェアトレード商品を知っている人は6割近くいたのを見たことがあるという人は4割近くだということである。そこで私たちはもっと多くの人に知って、見て、買ってもらいたいと考えた。しかし、実行に移せなかったことが反省点である。発表では私たちの意見を伝えることができたので、良い探究をすることができたと思う。</p>		
2D2	15	FSCで森林を守ろう
<p>現在、世界で危機にさらされている森林を守ることをテーマに、自分達にもできる解決策として森林を守るマークであるFSC認証マークに着目した。そこで、FSC認証マークの認知度を調べるためにアンケートを行った。その結果、FSC認証マークの認知度が低いことがわかり、認知度向上のための取り組みを考えた。自分達にもできる取り組みとして、地元のラジオ局であるFM橋本に協力をお願いした。そこで代表の向井景子さんとともにラジオ番組に出演させて頂き、CM作りをした。その作ったCMをFM橋本で流して頂けるだけでなく、橋本高校で全校生徒に聞いてもらい、多くの人にFSC認証マークの存在を知ってもらうことができた。</p>		
2D3	12、13	野菜食べきりチャレンジ
<p>フードロスの原因のひとつである家庭での野菜の過剰除去を減らすことをテーマにした。まず、各班員で実際に本来捨てられてしまう部分を使った料理を作って試食し、この活動には多くのメリットがあることが分かった。家でフードロスの現状、原因、内訳などを調べてポスターにまとめ、スーパーの店頭で、買い物に来たお客さんを対象に、家で捨てずに食べている野菜の部分についてのアンケートとフードロスについて広める活動を行った。それらの活動から若い世代の人はあまりフードロスに関心がなく、農家の方や高齢者の方はフードロスについての関心や自己流のアレンジの仕方を持っていることが分かった。</p>		
2D4	4	本がみんなの手に行きわたるように
<p>SDGs4番の「質の高い教育をみんなに」を達成するために、いらなくなった教科書や本を集め、それを他の人に渡すような仕組みを作ろうと試みました。山田地区公民館や、山田さつきこども園にアンケートを行い、データを作成し、本の寄付ボックスを作るうえでの留意点なども考慮しました。また、否定的な意見を改善し、スペースを設置するにあたってのルールやマナー等も考えチラシとして掲示しました。この取り組みで、公民館を利用する年齢層は高齢層が多く、若年層の利用が少ないことが新たな課題として見つかりました。</p>		
2D5	3、4、10	ヤングケアラー
<p>ドラマやCMで最近見る機会が増えた「ヤングケアラー」について、名前は知っていたが、どのような内容であるかわからなかったため、これをテーマにした。インターネットや本を使いヤングケアラーの定義や、どのような人に多いのかを調べた。また、市役所の方に対策や橋本市の現状について詳しく話を聞いた。様々なデータや情報を見て、ヤングケアラーという問題は身近なものであると気づいた。もし、周りにヤングケアラーの人がいたら、自分の家族や友人に話をして、相手に悩みを打ち明けられる環境を作ることが大切だと学んだ。</p>		
2D6	5	自分たちらしさを大切に
<p>私たちは子ども服からジェンダー問題について考え、どうすればジェンダーレスな将来を作ることができるのか、自分たちなりに取り組みました。実際に子供服を作っている会社や、ランドセル会社にアンケートをとりました。それらの結果から、子供服売り場の現状や問題点を把握し、それらに対する改善策を考えました。私たちは今回の活動を通して、大人の方や若者の意識が少しずつでも変わっていけば、きっとその人たちの行動は変わっていくと思いました。今、幼い子たちが大人になったときに、今よりもっとジェンダーレスですべての人が自分らしさを表現できる社会になっていたら嬉しいです。</p>		

2D7	4、12、13	残さず食べよう大作戦
<p>小学校の給食の食べ残しに着目して、小学生にSDGsやフードロスについて知ってもらい、食べ残しを削減するための取り組みを行いました。橋本市給食センターから、給食の食べ残しの量のデータを頂いたり、授業を行う予定の橋本小学校でアンケート調査も行い、一から計画を立てて授業を実施しました。今回の取り組みを通して、授業を受けた側だけでなく、授業をする側の学びにもつながることが分かりました。これからは、今の一年生にフードロスだけではなく、ほかのSDGsの課題についての授業を行い、私たちの活動を広めて行ってほしいと思います。</p>		
2D8	12、13	食のリサイクル～食品廃棄物をゼロに～
<p>私たちは、食のリサイクル～食品廃棄物をゼロに～をテーマに1年間取り組んできました。テーマを決めるのが遅く活動を始めるのが遅れてしまいましたが、実際に市役所に行ってコンポストについて話を聞かせていただき、食堂の方には食品廃棄物や廃油を準備していただきました。しかし、季節上取り組めないことが多く、自分たちの目標にはたどり着きませんでした。班員で協力しコンポストに取り組んだことで、計画性の大切さなどに気づきました。コンポストは廃油を使用するほうが分解速度が速いことを学びました。</p>		
2D9	12、15	食品ロスとベジブロス
<p>私たちはSDGsの12の目標である「作る責任使う責任」のうち、野菜の過剰除去を減らすことを課題に設定し、自分たちの身近にある食と自分たちに出来ることを考えた。その中でも野菜の切れ端をだしとして再利用できるベジブロスに着目し食堂から野菜を頂いて、実際に作ってみた。その結果、可食部を煮込んだだしと変わらず美味しくできた。その後、食堂の「ませカレー」に入れていただき、実際に食べた人にアンケートを取ると、普段捨てている部分を使っても味の変化なく美味しく食べることが出来たという結果になった。この活動からだしにすることで捨てることには変わらないが、ゴミの体積を減らすことが出来た。</p>		
2D10	12	食堂さんとSDGsを達成しよう！
<p>私達は、総合的な探究の時間で、SDGs12の作る責任、使う責任に関連し、学校でできることをテーマに、橋本高校の食堂に着目し、プラスチック容器を減らすことを目標に活動を続けてきました。初めは、食堂のプラスチックを無くすことを目標にしましたが、食堂の方から、「容器を無くすことは難しい」という意見をいただき、学校で使うプラスチック容器を減らすことに目標を置き換え、案を練り食堂の方に提案しました。工夫した案を提案した時に「とてもいい案だ」という言葉をかけていただき、仲間と嬉しさを共有することができました。発表が終わったときには、総探の活動が楽しく、また充実したものになったと感じました。</p>		
2D11	4、15	Less paper More Digital
<p>学校で配布されるプリントの量が多いことに着目し、紙の使用量を減らすことを目標として活動に取り組みました。ペーパーレスに対する意識や考えを問うために橋本高校の生徒にアンケートをしたり、橋本高校のペーパーレス化の現状について知るため先生にインタビューをしました。その中で、一人一台パソコンの使用頻度を増やすことで僕たちの目標を達成することができると考えました。しかし、デジタル化には難しい面も多くあり、すぐに紙の使用量を大幅に削減することは現実的ではないと知りました。そのため、生徒や先生がデジタル化に慣れるように、徐々に導入していく必要があるという考えに至りました。</p>		
2E1	4	交流会をしよう
<p>SDGs4番の「質の高い教育をみんなに」を設定し、自分たちと年の近い人達との交流が減っているという問題に着目して、中高一貫校という本校の特色を生かした交流会の実施をテーマにしました。実施するための計画として、中学校の教頭先生とも相談し、パワーポイントを用いた発表の方法を高校生が教えることと、中高生の考える進路についての相談会を行うことを考えました。計画を考えていく中で、中学校と高校の制度の違いによる実施の難しさや、高校生が交流したいことと中学生が交流したいことの内容の違いなどに気づくことができました。</p>		
2E2	4	学習支援ボランティアを広めよう
<p>SDGs4番の「質の高い教育をみんなに」に着目しました。その中で様々な理由で学校に行きにくい子やみんなと同じペースで勉強するのが難しい子のために作られた学習支援ボランティアについてもっと知ってもらい、多くの人に参加してもらえるようにしたいと考えました。このテーマに取り組んだことで、学習ボランティアでは子供たちに勉強を教える先生たちの人数が減少していることや、本当に学習支援ボランティアを必要としている子にその存在を届けられていないなどの問題があることを知りました。私たちはそんな現状を知り、自分からボランティアに参加することの大切さに気づきました。次は私たちが皆さんに現状と大切さを伝えたいです。</p>		

2E3	12	給食による食品ロスを減らすために
<p>私たちは給食による食品ロスを減らすためにというテーマでSDGs解決のために取り組みました。給食の食べ残しを減らすために、給食センターの方々に協力してもらい、みんなが美味しく食べられるような新しい給食メニューを考えました。しかし時間の都合上、実際に作って提案することはできませんでした。今回の取り組みでわかったことは、食べ残しを減らすために一番簡単な方法である給食自体の量を減らすことは、栄養の問題でできないということです。また、一からメニューを作るのは困難であり、なかなか採用してもらうには難しいと感じました。ポスター作りなど、もっと簡単なことから始めるべきだったと思いました。</p>		
2E4	2、12、13	昆虫食を伝えたい
<p>昆虫を使って自分たちで料理し、その感想などを橋本高校の生徒に伝えて昆虫食のイメージを良くすることを目標(テーマ)として活動してきました。最初に昆虫食について調べ、実際にコオロギパウダーを使って見つけたレシピで一人二品ずつ作りました。昆虫食をテーマにして分かったことは、昆虫食は食料問題を解決できるだけでなく、メタンなどの温室効果ガス削減などの環境問題を解決することが期待できるということでした。そして、昆虫食のイメージを一度で良くすることは難しい事が分かったので、これからも継続して活動することが大切だということが分かりました。</p>		
2E5	11、12、14、15	橋高フリーマーケットを開こう
<p>私たちは「つくる責任つかう責任」をテーマとし、資源の無駄を減らすために、橋本高校でフリーマーケットを開催してはどうかと考え、一年間取り組みました。さらに、校内の落とし物が多いと感じた私たちは、それらの中で再利用できるものをフリーマーケットの商品の一つとして取引すれば、よりゴミを減らすことができると思いました。しかし、落とし物を取引するには法律上の問題がありました。実際にフリーマーケットを開催することはできませんでしたが、この活動を通して、私たちでも開催可能だと思っていたフリーマーケットは実際は難しく、イベントの実現には相当の労力と協力が必要だとわかりました。</p>		
2E6	12、13	コンポストでエコな生活 肥えた土で農業してみよう
<p>生ごみコンポストを広めることをテーマにし、コンポストの仕組み、必要なものや使い方、地球温暖化対策や使用する人のメリットを取り上げた。コンポストは一人一人の身の回りの範囲でのみ有用なものであり、地域的な取り組みに活用しようとしても難しかった。しかし橋本市ではコンポストの普及に力を入れており、コンポストの貸し出しや補助金を出してくれるなどの制度があった。地球温暖化は一人の力では解決することができないが、たくさんの人に活動が広がれば持続可能な社会も実現することができると思うので、この「総合的な探究の時間」は子供たちにSDGsについて考えさせるいい時間だと思った。</p>		
2E7	7、14	プラスチックごみを利用して エネルギーマもコミュニティも アゲアゲ
<p>まず、班で何について取り組むか考えたとき、SDGs14番「海の豊かさを守ろう」について身近な事で何かできないかを話し合った。川の中や周辺にプラスチックごみが多いということに着目し、また、SDGs7番「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」とも関連付けこのテーマにした。目標を実現するために現状を知り、問題解決のためSDGs7番と14番の両方の視点から、企業のホームページや慈善団体の取り組みなども調べて、プラスチックごみを利用可能なエネルギーへと変換する技術やゴミ拾い・ごみを利用してのイベントの開催を考えようとした。問題解決にあたって、同じ問題でも様々な視点、方法で解決へと向かう事ができる事を学んだ。</p>		
2E8	14、15	ポイ捨てなくすぜ！橋本市！！
<p>私たちは橋本市の環境を守ることをテーマにした。そして、ポイ捨てが環境破壊につながることを知り、ゴミ箱の設置やゴミ箱に工夫を加えることでポイ捨てが減ることが望めるのではないかと考え、JR橋本駅に協力してもらいゴミ箱を実際に設置し経過を観察した。結果として、橋本駅周辺のポイ捨ては軽減し、分別にも協力してもらうことができた。これからの課題として「誰がゴミを回収するのか」「どこで処分するのか」などが挙げられた。実際にやってみることで、自分たちが予想できなかったことがわかったり、新しい課題を発見することができ、改善を重ねることでさらに良いものができる気が付いた。</p>		
2E9	15	間伐材の良さを知ろう
<p>私たちはSDGs15番「陸の豊かさを守ろう」をテーマに取り組み、間伐材に焦点を当て活動しました。色々調べていく中で、間伐とはどういうものなのか、間伐することで森にどのような良い影響を与えるのかということを知りました。現在間伐材の使用率が低く、使われないまま放置されているものが多くあり、それが環境に悪影響を与えています。私たちはこの問題を解決するために間伐材をPRすることにしました。いろいろな人に間伐材の良い点を知ってもらえば、間伐材の商品購入が促進され、消費量の増加が考えられます。「間伐材の商品を購入する」という小さなことではありますが、一人一人の活動が持続可能な社会に繋がれると考えます。</p>		

2E10	12、14、15	在来種を守り隊
<p>わたしたちは橋本市の在来種の保護をテーマとして活動しました。まず、わたしたちは何が在来種を脅かしているかについて調べるため、実際に紀の川に行き調査をしました。調査結果から在来種を守るために、市で外来種を回収し、コンポスターを使い肥料にすることで有効活用出来るのではないかと考えました。また作った肥料を農業に利用することで橋本市の農業を活性化できると考えました。この調査を通して、高校生のみだけでは活動に限界があり、地域全体との協力が必要不可欠であると感じました。</p>		

2E11	12	食品ロスを減らそう！
<p>家庭から出る食品ロスの削減をテーマに、班員計3人のそれぞれの家庭でコンポストを活用した。目標を大きくしすぎては、高校生の手には負えなくなると判断し、先述のような課題を設定した。活動の内容としては、家庭から発生した食品ロスの重さを測り、その後コンポストを利用し、堆肥にした。その結果から、月に平均どれだけの食品ロスを削減できたかを調べた。課題解決のための方法を考えることは、その課題がどれだけ私たち自身にとって身近なものであったとしても、難しいことが分かった。今回の場合、「コンポスト」という既存の方法を採ることになってしまった。解決策を考える際は、柔軟な思考力が必要であるとわかった。</p>		

### 活動届

橋本高校 総合的な探究の時間

参加生徒	班名	年 組 班名：	
		リーダー： 年 組 氏名	
		連絡用携帯番号	
	校外活動参加生徒		

依頼先 <small>訪問見学 インタビュー 見学等</small>	名称		
	住所		
	連絡先電話番号		
	手段	訪問 ・ 電話 ・ メール ・ その他 ( )	
	対応して下さる方	氏名：	役職：

活動日時	令和 年 月 日 ( ) 時 分 ~ 時 分
活動内容	簡潔に記載 (目的を明確にする)

集合場所	① 現地      ② それ以外 ( )
代表者の 交通手段	

緊急連絡先：0736-32-0049 (橋本高等学校)

\*色がついている箇所は、担当教諭から許可された後に記入すること。

許可日：令和 年 月 日      担当教諭： \_\_\_\_\_

### 活動報告

活動報告	簡潔に記載
------	-------

《確認事項》  
 \*直接訪問や見学だけでなく、電話、メール等を使ったインタビューやアンケートを実施する場合でも、必ず担当の先生から許可を得ること。  
 \*活動届を提出してから、依頼先に許可をとるため、**実施予定の1週間前には用紙を提出**すること。  
 また、**実施後、直ちに報告書を担当の先生に提出**すること。

《活動許可までの手順》  
 ①依頼先を決定する。  
 (依頼先の業務内容をしっかり調べ、訪問・見学・インタビューの目的や内容を明確に考える)  
 ②活動届を提出する。  
 ③担当の先生から許可がでたら、生徒は**依頼先に学校の電話で連絡**し、お願いをする。  
 (目的、内容、いつ、誰に依頼するのか)  
 ④依頼先に訪問・見学、インタビューなどする。  
 ⑤報告書を記入し提出する。      け      組

《依頼する時に相手先に伝えること》  
 ①高校名、氏名      ュ  
 ②総合的な探究の時間での自分たちの取り組み内容      査  
 ③協力していただきたい内容とその趣旨  
 ④訪問希望日、質問回答(返信)などの今後の予定      が希望日は複数考えておくこと

《依頼時の例》  
 ①橋本高校〇年の〇〇と申します。今、お時間いただけるでしょうか。  
 ②私たちは、「例：SDGs」に関する探究活動に取り組みながら「      」について研究しています。  
 ③つきましては、〇〇様に「例：訪問してのインタビュー調査」をさせていただきたいと思い、お電話いたしました。「例：訪問してのインタビュー調査」をさせていただくことは可能でしょうか。  
 \*ここからの内容については相手から質問されることあるため、準備しておくこと。  
 例：時期は〇月〇日( )の〇時頃を考えておりますが、ご都合いかがでしょうか。  
 では、〇月〇日( )の〇時に、私を含め〇人でお伺いいたします。よろしくお願いたします。  
 ④本日はお時間をいただきまして、ありがとうございました。それでは失礼いたします。

## 9. 校内発表会

校内全体発表会を「橋本市サカイキャニング産業文化会館アザレア」で実施。これまで活動に協力してくださった方、保護者、コンソーシアム、運営指導委員等の方々に来場していただき、クラス代表班がプレゼンテーションを行った。講評をいただき、探究活動をする上でもつべき視点を共有し、探究力向上のための課題を知る機会となった。

**令和5年度 和歌山県立橋本高等学校 校内発表会**

令和5年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」に係る校内発表会

日程 令和6年2月8日（水） 9：25～12：15

会場 橋本市サカイキャニング産業文化会館「アザレア」（大ホール）

本日のプログラム


1) 開会式

2) 発表

			発表タイトル
9:30～	① 1年C組8班	環境・防災	橋本市のハザードマップを発信しよう
	② 1年E組6班	教育・福祉	保育従事者の負担を減らす
	③ 1年B組3班	農林業	橋本市の農作物を広めよう
	④ 1年A組2班	くらし	橋本市へ移住させるには
	⑤ 1年D組2班	くらし	廃校活用
			休憩
10:50～	⑥ 2年D組7班	SDGs 4,12,13	残さず食べよう大作戦
	⑦ 2年B組8班	SDGs 10,11	外国人が住み続けられる橋本市に
	⑧ 2年A組7班	SDGs 12	フードロスをなくすために
	⑨ 2年C組2班	SDGs 11,15	橋本駅をよりよく
	⑩ 2年E組8班	SDGs 14	ポイ捨てなくすぜ！橋本市！！

3) 講評

4) 閉会式



生徒たちは、社会の課題を自分事として考え、その解決に向けて半年間、探究活動に取り組んできました。意見を交換しながら、自分たちで見つけた気になる問いに対して課題を設定し、情報を収集・分析し、それをまとめて生徒たちなりの答えをだしています。その成果をご覧ください。

### 【校内発表会の様子】





# 橋本市の農作物を広めよう

1 B 3班

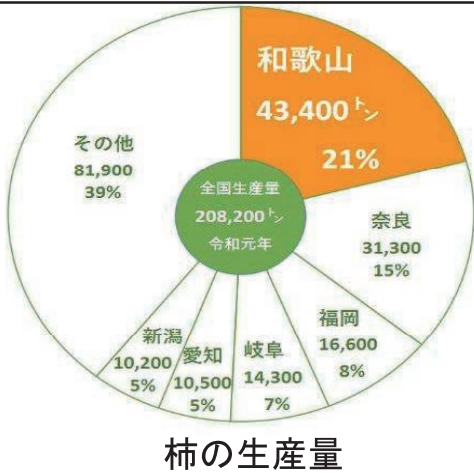
1

## 橋本市の 主な農産物

- ・柿
- ・みかん
- ・梅
- ・巨峰
- ・はたごんぼ



2



3



はた、ごん、ぼ？

4

はたごんぼとは



5

どうやって広めるの？

キッチンカーを使おう！



6

橋本市が保有する  
キッチンカーは0台！

橋本市からキッチンカーを  
出すのは厳しいそうです



7

## キッチンカー



橋本商工会議所青年部

8

イベントでキッチンカーを出  
したい方に条件を提示する



9

## 条件

橋本市の野菜を使って  
一品以上料理を作る

10

店を出す人に  
直売所から購  
入していただ  
きます。

11

イメージ

直売所



店を出したい！

では、あのお店の  
食材で料理を作っ  
てくだ下さい



12



直売所

13



やっちゃん広場

14



よってって

15



実際に直売所に売っている  
野菜

新鮮

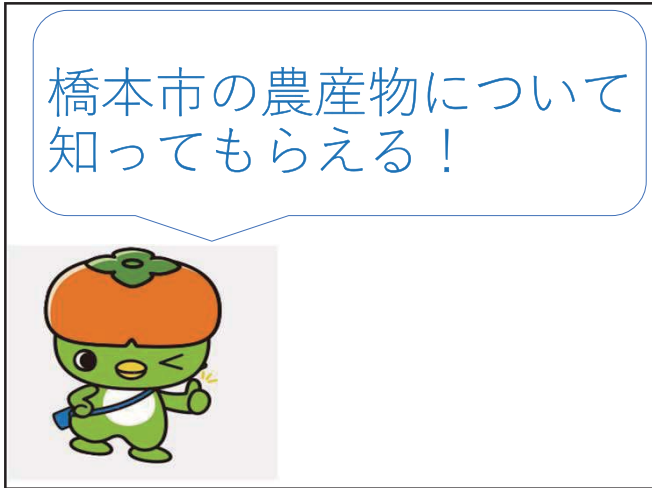
安心

安価

毎朝採れたて

\* やっちゃん広場

16



橋本市の農産物について  
知ってもらえる！



17

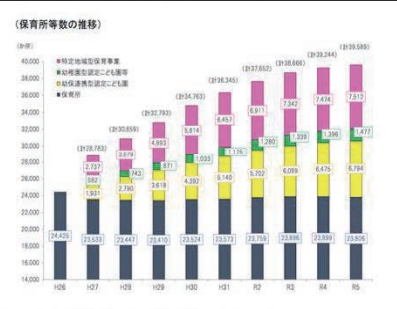
# 教育福祉

1年E組6班

## インターネットの意見

- 子供の荷物とほかの園児の荷物を入れ間違えられた
- 迎えの時間を伝えていたのに忘れられた
- 帰ってきたらオムツがぬれていた
- 保護者と保育士とのコミュニケーションが少ない

保育従事者の  
負担を減らす

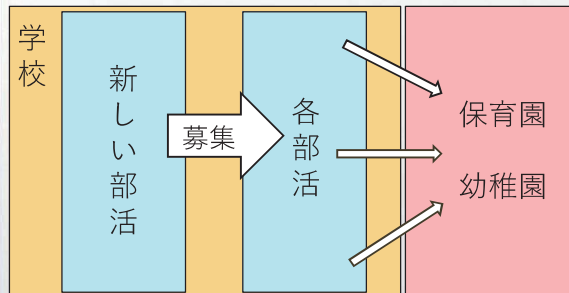


## クラブ活動の一環

中高生が保育施設に行ってお手伝い



- 保育士の負担軽減
- 保育の質向上
- 保育士志望者の増加

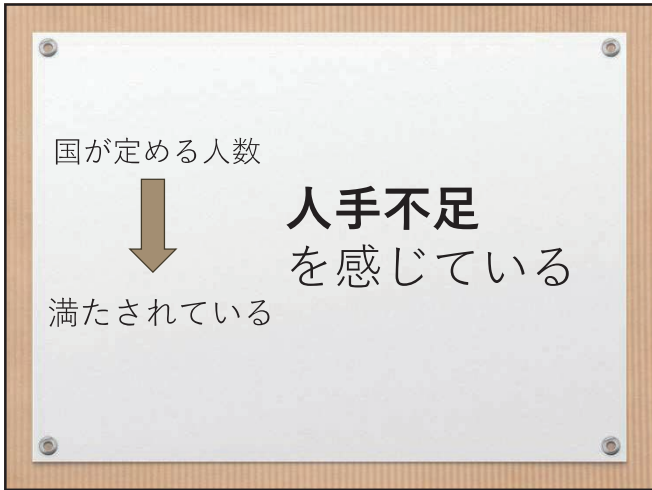


- クラブ活動の開始時間
- 移動時間・交通費
- 受け入れ先
- 人数が集まるのか
- 責任問題

7



8



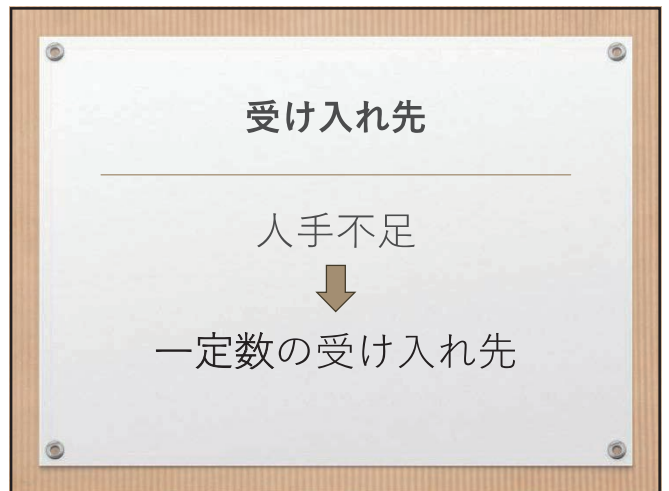
9

- 保育士として**賛成** (負担にはならない)
- 子供は**若い学生**や**新しい先生**などが好き
- **満足度**が大きい

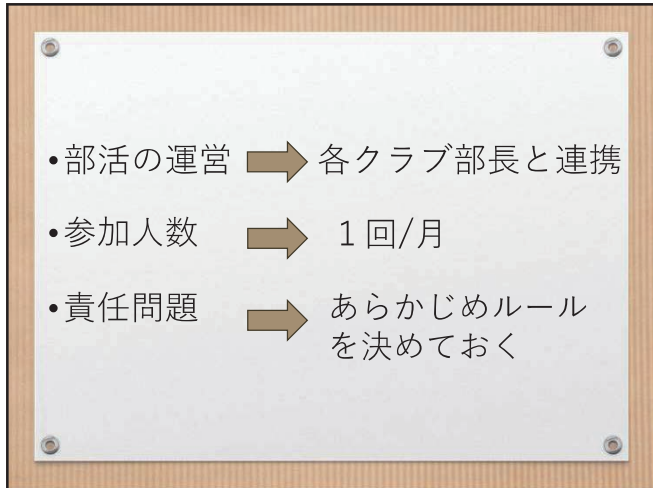
10

- 解決策**
- 活動時間 ➡ 延長保育での手伝い
  - 移動費 ➡ 運営側の部費で負担

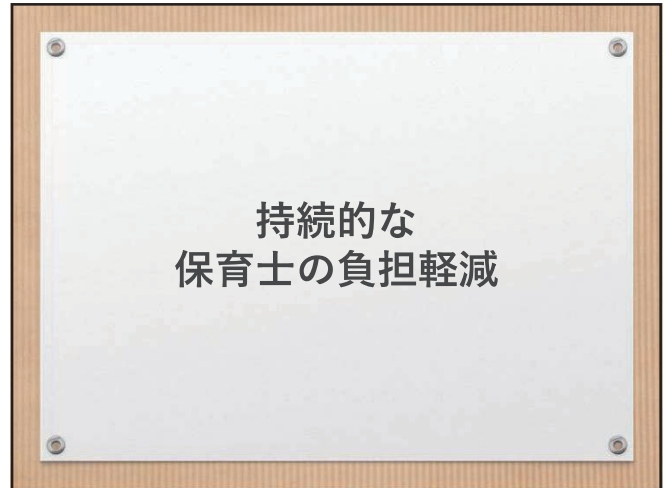
11



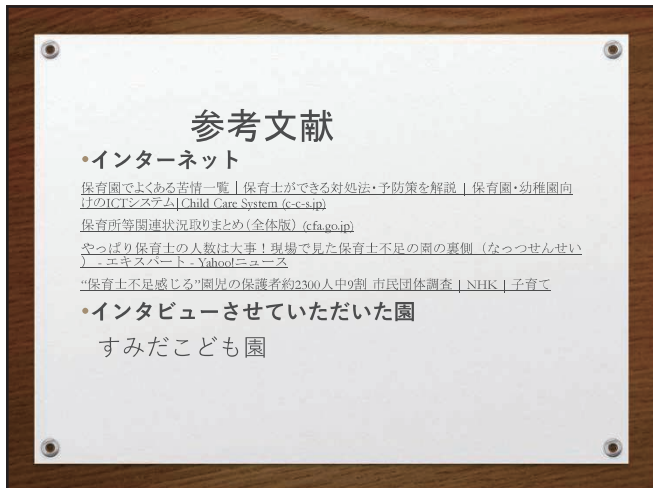
12



13




14



15


## SDGs 探究 AWARDS2023 結果発表



SDGs 探究 AWARDS2023 では、2023年12月1日～2024年2月1日の期間、全国の中高生、学生の皆様より、作品の募集を行いました。


今年度もたくさんの方々にご意欲的に取り組んでいただき、全国から総数754件、参加人数にして約2600名の方々からエントリーをいただきました。

皆様からいただいたエントリー作品をSDGs 探究 AWARDS2023 審査会にて、着眼点や想像力、表現力、具体性などの観点から審査を行い、各賞を選出いたしました。以下にて発表させていただきます。



**協賛団体賞**

グローバル化への第一歩



**協賛団体賞**  
**株式会社日本旅行賞**  
 2B 8班  
 和歌山県立橋本高等学校

外国人が住み続けられる  
橋本市に

2年B組 8班



1

このテーマにした理由

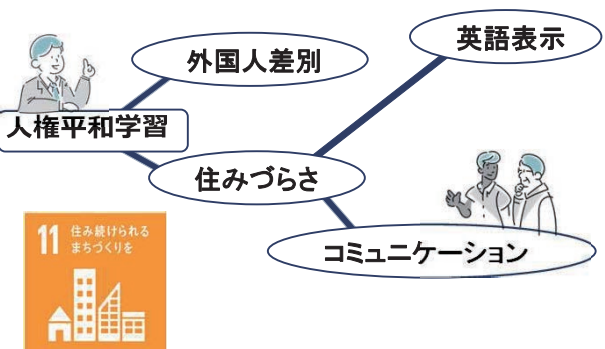
外国人差別

英語表示


人権平和学習

住みづらさ

コミュニケーション



2




ALTの先生に日常生活で困ったことを  
聞いた結果

3

現在の状況

1. 飲食店の英語表示が少ない
2. 店員さんに英語が伝わらない
3. 間違えた商品を買ってしまう



4



先生に聞いた他校のALTの先生の実体験



5

SET MEALS

Roast beef set A

Meat taken from the round.  
Served rare but very lightly seared. Delectably lean, low fat beef.

**トリップアドバイザー 1位**

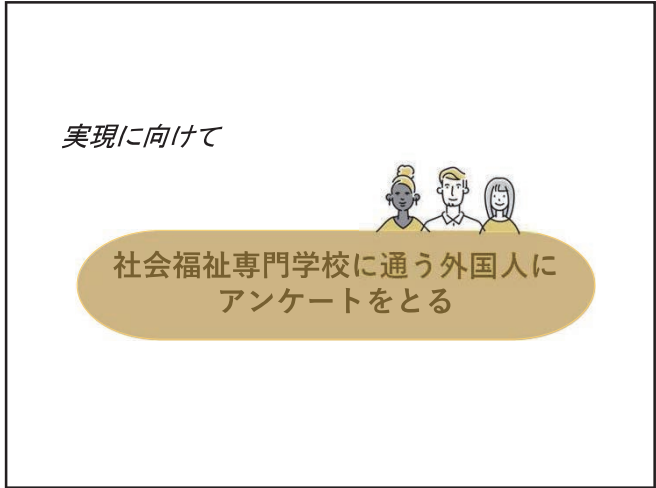
Served rare but very lightly seared. Delectably lean, low fat beef.  
¥2,200



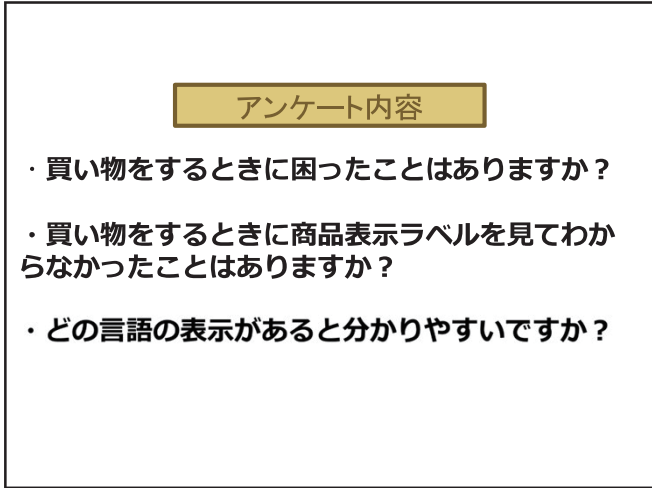
6



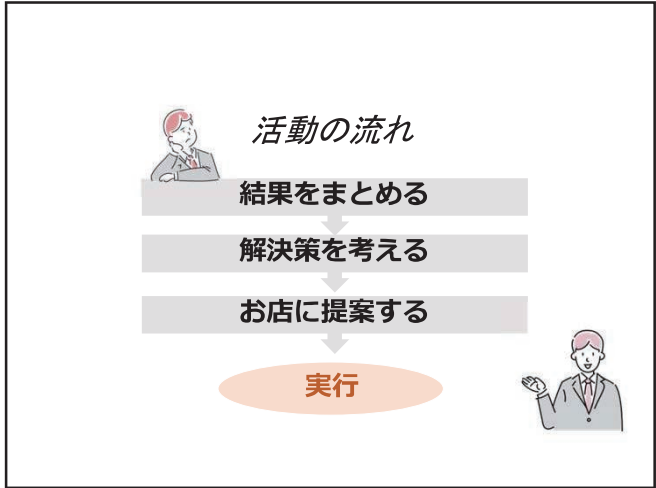
7



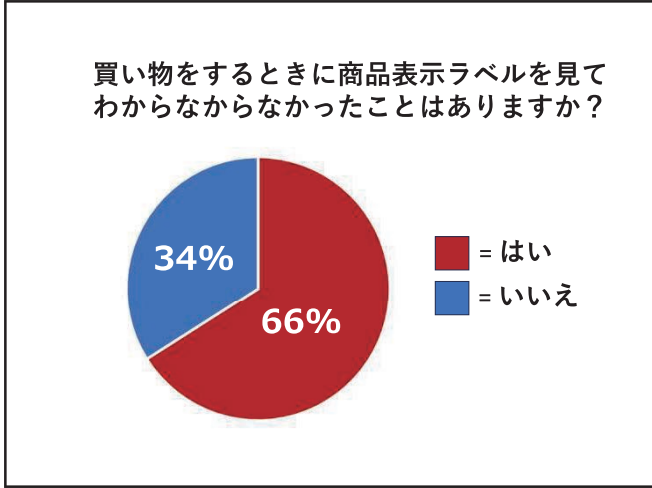
8



9



10



11

「はい」と答えた方の意見

漢字を読むことができなくて、  
間違った商品を買ってしまった。

翻訳機がなければ日本語を読めないため、  
買い物がスムーズにできない。

12



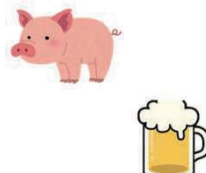
「はい」と答えた方の意見

豚肉などの宗教上食べてはいけない食材が含まれていることに気づかずに食べてしまった。

13

### 主な宗教と禁止されている食べ物

イスラム教



[ムスリム（イスラム教徒）が食べてはいけないもの。 | カンタンとくれぼん \(lahja.me\)](#)

ヒンドゥー教



[ヒンドゥー教徒の食事制限～食のタブーと調理・接客のポイント～ | CAN EAT,Inc](#)

14

<アンケート結果>

どの言語の表示があるとわかりやすいですか？

対象の生徒 **約80%** が  
**英語の表示があるとわかりやすい**  
と回答

15



表示する言語を英語にする  
英語がわからない人のために  
イラストをつける

16

ファミリーマート古佐田店に提案

この店舗を  
選んだ理由

橋本駅に一番近い  
店舗である

高野山に訪れる外国人  
観光客が利用する機会が  
多い

17

現在のお店の  
状況

普段から外国人観光客は  
多く訪れる

特に多いのは  
紅葉シーズン

18

現在のお店の状況

商品についての質問がよくある

お客さんが多いと対応しきれないことがある

19

簡単に説明ができる  
おにぎり・サンドウィッチ・パスタに  
着目して表示ラベルを作成

20



21



22



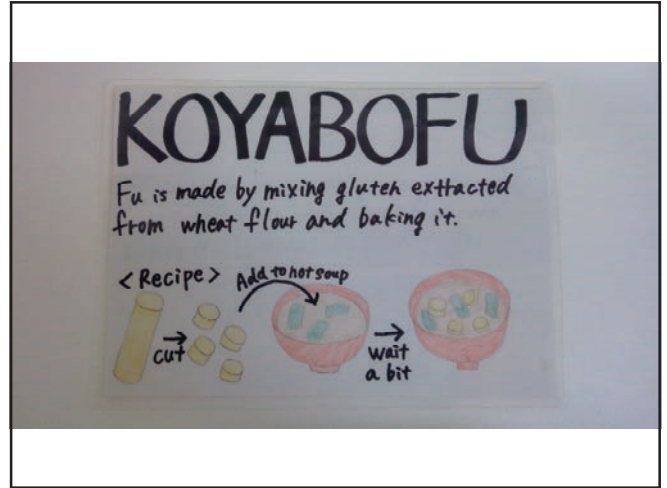
23



24



25



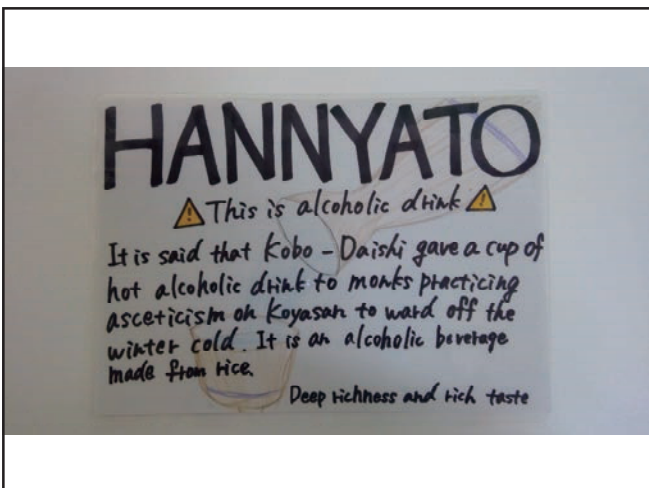
26



27



28



29



30

商品表示を置いた結果

< 効果 >

外国人が目を留めて見てくれるようになった

店員さんが説明しなくても商品について  
理解・納得してくれるようになった

31

32

< 改善点 >

イラストを目立たせる

そのまま食べられるものは  
商品名と味だけでも良い

< 改善点 >

aとdの違いが分かりづらい

→ **文字は印刷,イラストは手書き**

33

34

今後の目標

改善点を踏まえて  
表示する **商品・店舗の拡大** を目指す

協力

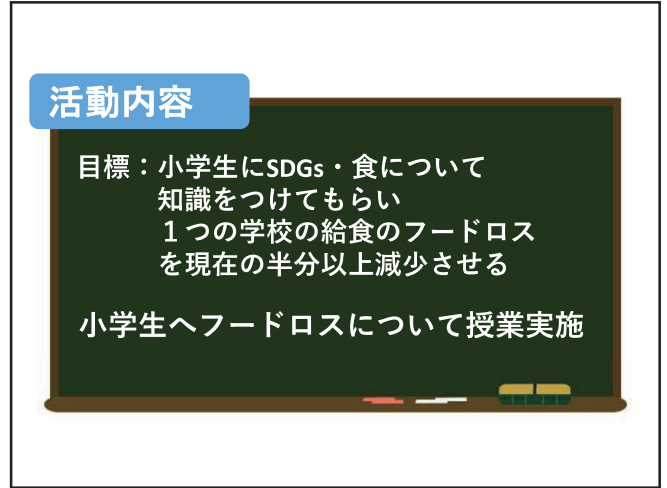
ファミリーマート古佐田店  
和歌山社会福祉専門学校 橋本キャンパス  
Piper Madeline Obert  
有限会社 勝間屋  
ご協力ありがとうございました

35

36



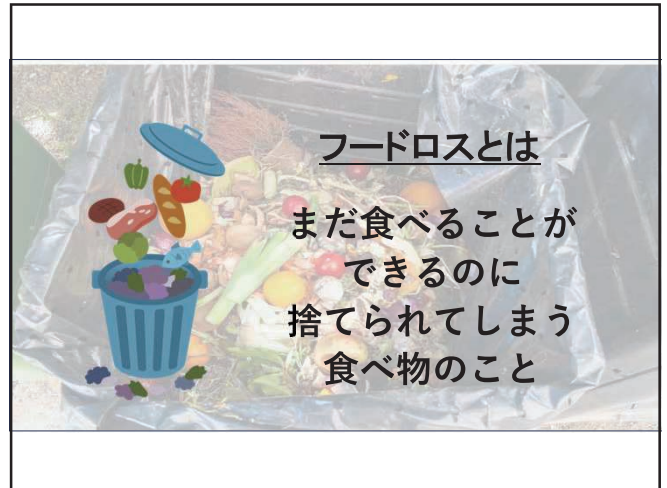
1



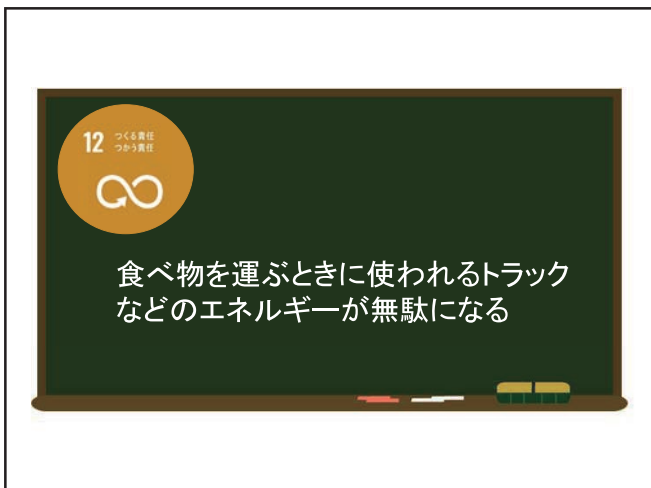
2



3



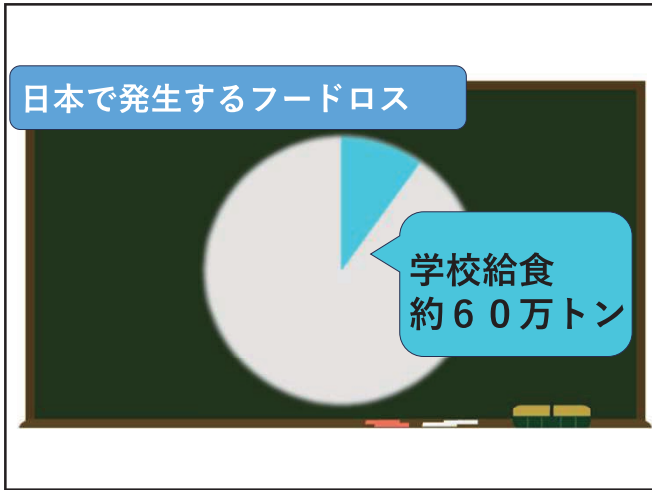
4



5



6



7

### 自分たちにとって身近なSDGs

解決

授業を自分達  
が実施する

小学校で  
発生する  
フードロス

8

フードロスに関する知識を広める  
ことで質の高い教育につながる

9

### 現状確認

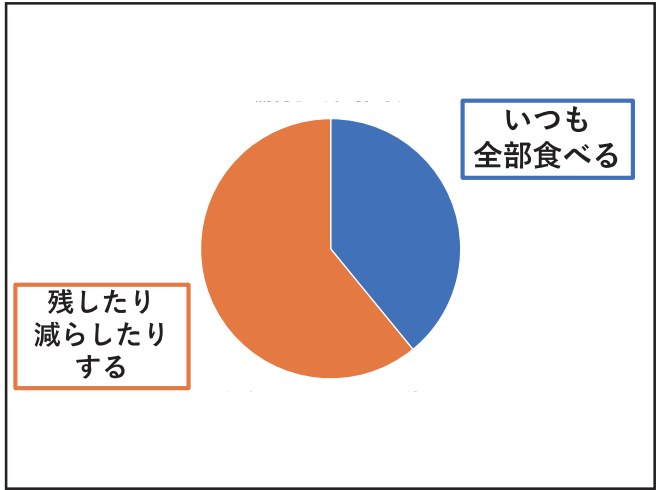
- 橋本小学校でのアンケート調査
- 橋本市給食センターからのデータ提供

10

### アンケート

- 給食を残したり減らしたりするか
- 給食を残したり減らしたりする理由
- 嫌いな食べ物

11



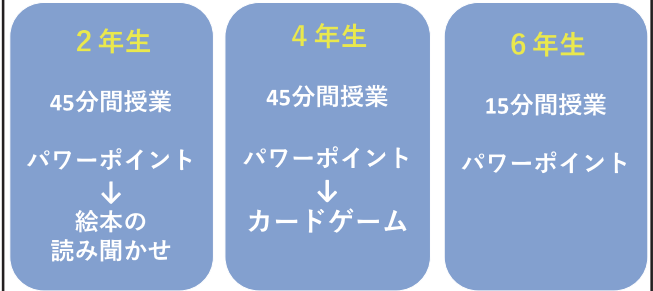
12

### 給食センターの食べ残しのデータ



13

### 授業計画



14

### 実際に用いたPowerPoint

☆食べ物の栄養を知ろう  
食べ物に含まれる栄養には、  
体を作る 体を動かす  
体の調子を整える  
という働きがある。

食べ物の栄養

15

### なんでやろう？ 食品ロスカードゲーム



※「シャッフル」(3枚)は  
フードサプライチェーン  
カードに含まれます。

16

### 食品ロスカード



### 食品ロス削減カード



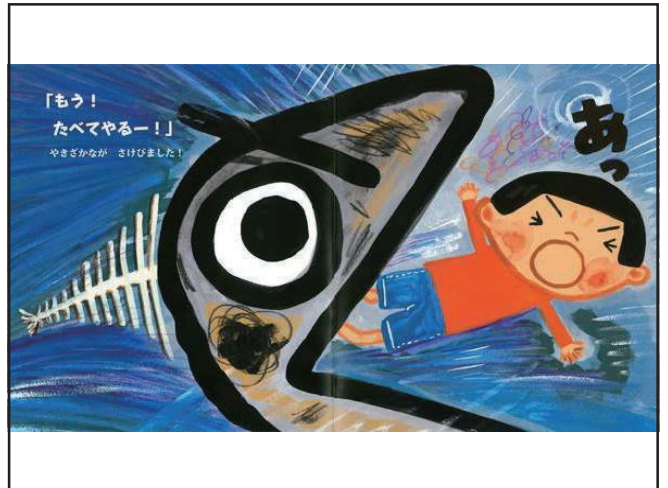
17



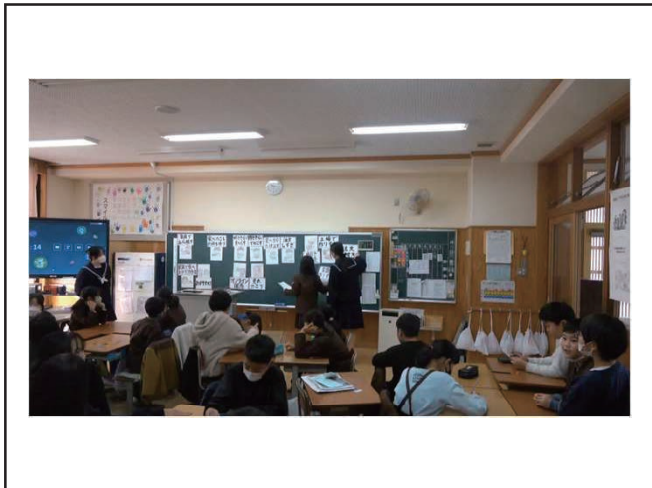
18



19



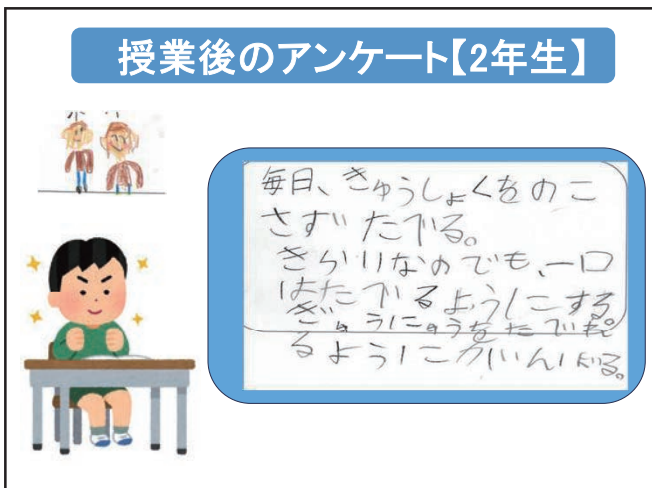
20



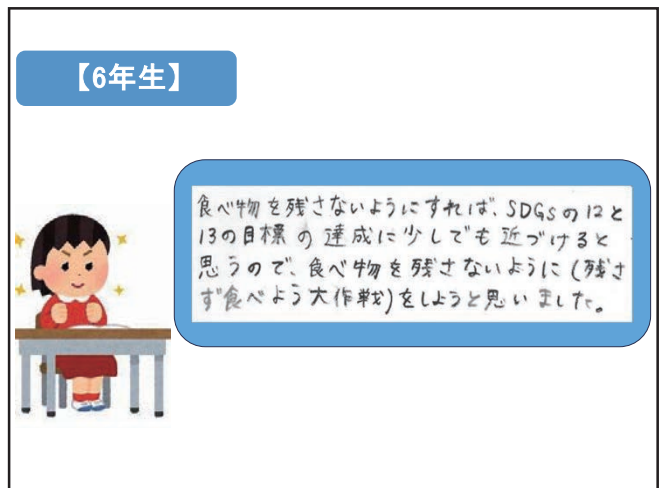
21



22



23



24



## 活動を通して

授業をすることによって...



★SDGs などについて学ぶ機会ができる

興味・関心 ↑↑↑

★授業をする側の学びにもつながる

25

## 今回の反省

授業後  
給食の食べ残しの量の変化を調べられていない

- ★小学生に食べ残しの量が減ったか聞く
- ★給食センターの食べ残し調査

26

## SDGs について学ぶ機会を増やしたい！

- ・他学年の授業
- ・ほかのSDGs 課題についての授業
- ・活動の輪を拡大



27

## 授業の流れ

4年生指導案

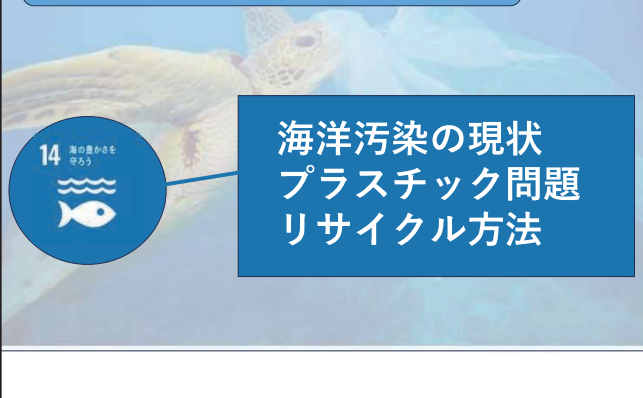
1. 日時 2023年 12月 18日 (月曜日)  
2. 場所 橋本小学校 (授業者：伊藤 麻由、田村 心夢)  
3. テーマ 食べ残しより大切なこと  
4. 単元/単元名 食べ残しより大切なこと  
5. 単元/単元名 食べ残しより大切なこと  
6. 単元/単元名 食べ残しより大切なこと

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	授業の目的を説明し、食べ残しを減らすことの重要性を伝える。	食べ残しを減らすことの重要性を伝える。
展開 15分	食べ残しを減らすための方法を話し合い、実践する。	食べ残しを減らすための方法を話し合い、実践する。
評価 5分	食べ残しを減らすための方法を話し合い、実践する。	食べ残しを減らすための方法を話し合い、実践する。
まとめ 5分	食べ残しを減らすための方法を話し合い、実践する。	食べ残しを減らすための方法を話し合い、実践する。

指導上の留意点

28

## その他SDGsの授業テーマ



14 海の豊かさを守ろう

海洋汚染の現状  
プラスチック問題  
リサイクル方法

29

## 参考・協力

橋本市給食センター  
橋本市立橋本小学校

絵本「やきざかなののろい」塚本やすし  
[なんでやろう?食品ロスカードゲーム | もったいないやんへらそう食品ロス \(osaka-foodlosszero.jp\)](#)

30